【PRESS RELEASE】

泉屋博古館東京
SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展III

古美術逍遙　東洋へのまなざし

Grand Reopening Exhibition III　Stroll Through the Art of East Asia

2022年9月10日（土）～10月23日（日）

泉屋博古館東京リニューアルオープンを記念して開催する館蔵名品展パート３。古くより人々のまなざしを集めてきた東洋美術の名品の数々を、国宝２件・重要文化財１０件も含めて一挙にご紹介します。

住友家に蒐集された美術品は、仏教美術、日本絵画・書跡、茶の湯道具・香道具、中国絵画・書跡、文房具の多岐にわたります。日本の絵画は人々が愛でる花鳥風月を描き、中国絵画は目に見えない「気」をどう表すか格闘を続けました。また、茶の湯や煎茶は茶を飲む行為に視覚の悦びを生み出しました。そして人間という無常な存在に慈悲の目を向ける仏。東洋の美術は、まなざしのドラマに溢れています。本展では、そうした東洋美術をめぐるまなざしのドラマを、住友コレクションを生み出した数寄者の「目」とともにご紹介いたします。

【本展のみどころ】

１．国宝２件、重要文化財10件登場

２．日本書画の魅力をダイジェストでお伝え！

３．私立美術館ならでは、数寄者の美意識を伝えるコレクション

４．東京館には初登場！？　住友コレクションの仏教美術

５．激烈な時代を生きた人々はいったい何をのこしたか

ー中国絵画と文房具

【展示構成】

1　中国絵画　― 気は熟した（第１展示室）

住友コレクションの中国書画は、個性の異なる二人の手によって主に蒐集されました。そのひとりが、住友寛一。住友春翠の長男です。はじめ近代西洋の芸術を愛好していた寛一は、やがて東洋美術、特に文人画の魅力に気付きます。彼が心惹かれたのは、伝統に縛られない個性的な画風をつくりあげた画家たちで、結果的に八大山人や石濤らの作品が集まります。
一方、父・春翠が集めた中国書画も魅力的です。好んだのは型破りよりも気品ある画面。用いる空間を念頭に置きながら蒐集した作品ばかりです。たとえば煎茶会でかけるための明清書画。あるいは茶の湯で唐物として尊ばれた南宋絵画。近代の数寄者同士の交流の上では必要とされた書画ばかりで、クラシックで重厚感を漂わす作品群です。
この二つの中国書画コレクションは単なる親子の趣味の違いにとどまりません。日本が中国絵画に求めた理想が明治から大正にかけてゆるやかに変化したその軌跡をなぞるような、二代がかりの一大コレクションなのです。

石濤《盧山観瀑図》
重要文化財　清時代
17~18世紀　泉屋博古館蔵

八大山人《安晩帖》重要文化財
清時代・康熙33年(1694)
泉屋博古館蔵

2　仏教美術　― かたちの彼岸（第２展示室）

当館の仏教美術は数こそ多くありませんが、仏教伝来の道筋を辿るように地域的な広がりを持つのが特徴です。特に中心は金銅仏。青銅器蒐集で培った住友春翠の中国の金属工芸に対する審美眼が発揮されたジャンルです。一方、仏画では、高麗時代の朝鮮半島で制作された《水月(すいげつ)観音像(かんのんぞう)》に清らかな品格を見出すことができ、春翠らしい清雅の美意識が感じられます。また、日本で制作された鏡像は、その線刻のあまりの細やかさに「キャンバス」が金属であることを思わず忘れさせる驚きの作品です。
当館のコレクションは、仏教美術史を通観できるものとは言えませんが、作品それぞれに人々の祈りから生まれた美が宿り、それを見出したコレクターたちの眼を感じとることができます。

《弥勒仏立像》重要文化財
北魏時代・太和22年（498）
泉屋博古館蔵

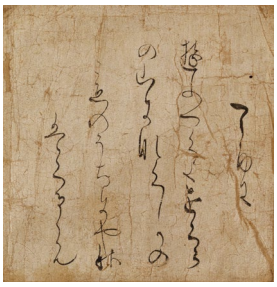
《線刻仏諸尊鏡像》国宝
平安時代 12世紀　泉屋博古館蔵

《毘沙門天立像》
鎌倉時代 13世紀
泉屋博古館蔵

3　日本美術　ー　数寄あらば（第３展示室）

住友コレクションには、様々なジャンルの日本の絵画・書が残されています。例えば、墨という色材だけで、移り変わる世界の一瞬を描き出す水墨画。これが邸宅の床の間にかかると、場の空気は引き締まったことでしょう。鮮やかな彩色と緻密な描写が目をひく大画面の掛幅や屏風は、大広間をもてなしの場へと変貌させました。手元で楽しむ小作品としては、我が国の豊穣な物語世界を伝える絵巻物をご紹介します。

また書画鑑賞の重要な場となったのが、茶会です。住友コレクションの蒐集者・住友春翠もまた茶の湯の世界へと足を踏み入れたひとり。本展では春翠が関係した茶会の記録を紐解きながら、実際に100年ほど前の茶会で取り合わせられた書画と茶道具もご紹介します。



伝 紀貫之《寸松庵色紙「ゆふつくよ」》
平安時代　11世紀　泉屋博古館蔵

雪舟《漁樵問答図》
室町時代　15世紀　泉屋博古館蔵

伊藤若冲《海棠目白図》
江戸時代　18世紀　泉屋博古館蔵

《佐竹本三十六歌仙絵切　源信明》
重要文化財　鎌倉時代 13世紀
泉屋博古館蔵

《小井戸茶碗 銘 六地蔵》
朝鮮時代　16世紀
泉屋博古館東京蔵

《蜻蛉枝垂桜蒔絵香箱》
桃山～ 江戸時代 16~17世紀
泉屋博古館東京蔵

《白紫地海松貝四菱
唐花丸模様厚板》
江戸時代 17世紀
泉屋博古館東京蔵

4　文房具と煎茶　ー　清風は吹く（第４展示室）

文房すなわち書斎は、主の美意識が最も反映される場所です。その美意識を凝縮したものが、文房で使う道具（文房具）です。中国の文人たちは、文房に清らかな美しさを求めました。書画制作に必須の文房四宝（筆、硯、墨、紙）や、自然の偉大な気を宿す石に瓶花、先人の美意識と技術の結晶である青銅器、清風を生む煎茶など次々と文房に取り入れ、友との清談を楽しみました。日本でも江戸時代以降、こうした生き方に共感を抱く人々が現われ、煎茶会を開いて楽しみます。住友家15代当主の住友春翠(1864-1926)もその一人でした。本展では、煎茶会のしつらえをイメージした展示を行うことで、かつて文房という空間ではどのように芸術が鑑賞されていたのかご紹介します。今の私たちにとっては、思いもよらない新鮮な芸術の楽しみ方がきっと見つかるはずです。

《粉彩百鹿図牛頭尊》
清時代 18世紀　泉屋博古館蔵

《鍍金魁星像》
明時代 17世紀　泉屋博古館蔵

《会期中のイベント》

○講演会「展示ケースのツボ〈アートwithシリーズ〉」9月16日（金）17:30〜18:30
講師：山内佳弘氏（展示ケース設計工房山内　代表社員） 定員：40名（予約制）
聴講料：500円（展示をご覧になる場合は別途観覧券が必要です）

●記念煎茶会「もういちど、はじまりを」 9月19日（月・祝）14:00〜15:30
登壇者：佃 一輝氏（一茶庵宗家）、佃 梓央氏（一茶庵宗家嫡承）、
島尾 新氏（学習院大学文学部教授）、新恵美佐子氏（画家）、
野地耕一郎（泉屋博古館東京館長）、竹嶋康平（泉屋博古館学芸員）ほか
定員：25名（予約制）＊受付終了　参加費：1,000円（煎茶付き）

○特別講座「香りを聞く」 10月1日（土）14:00〜15:30
講師：山田悠介氏（麻布 香雅堂　代表取締役社長） 定員：40名（予約制）＊受付終了
参加費：2,000円（文香のお土産付き）

●ミュージアムコンサート 10月6日（木）18:00〜19:00
奏者：岩城里江子氏（アコーディオン） 定員：30名（予約制）

○記念講演会「八大山人と禅画」 10月9日（日）14:00〜15:30
講師：塚本麿充氏（東京大学東洋文化研究所 教授） 定員：40名（予約制）＊受付終了

●スライドトーク 9月23日（金・祝）、10月21日（金）　各回とも14時から
講師：竹嶋康平（泉屋博古館学芸員）定員：40名（当日整理券を配布します）

《図録》泉屋博古館 名品選99

美を求め、美を還す―明治大正の名だたる「実業界の数寄者」のなかで、その品格で一目置かれた住友家15代当主・住友春翠
春翠の美意識と審美眼が選んだ、美しきものたちが集う泉屋博古館。
住友家15代当主・住友春翠は、住友のトップとして多忙な身でありながら、茶の湯や能に親しみ、文人趣味に傾倒する一方で西洋の生活様式を実践しました。そして鉱山業を原点とする住友らしく、中国古代青銅器の世界有数のコレクションをつくりあげた春翠は、つねに自国文化の発展を願い、収集品の公開や芸術家への支援を惜しみなく行いました。本書は春翠を中心とした住友家ゆかりの、国宝2点、重要文化財19点、重要美術品60点を含む約3500件の「泉屋博古館コレクション」から99点を厳選し、由来とともに、その魅力を紹介するものです。

価格：2,200円（税込）
2022年3月刊行
発行：青幻舎単行本（ソフトカバー）、264頁

《基本情報》

展覧会名　泉屋博古館東京リニューアルオープン記念展III
古美術逍遙―東洋へのまなざし
Grand Reopening Exhibition III
Stroll Through the Art of East Asia

会　　期　2022年9月10日（土）～10月23日（日）
前期:2022年9月10日(土)～2022年10月2日(日)
後期:2022年10月4日(火)～2022年10月23日(日)

開館時間　11:00～18:00　※金曜日は19:00まで開館　※入館は閉館の30分前まで

休 館 日　月曜日　※祝日の場合は開館、翌平日休館

入 館 料　一般1,000円（800円）、高大生600円（500円）、中学生以下無料
※20名様以上の団体は（　）内の割引料金
※障がい者手帳ご呈示の方はご本人および同伴者１名まで無料

会　　場　泉屋博古館東京　〒106-0032　東京都港区六本木1-5-1
https://sen-oku.or.jp/tokyo/
TEL:050-5541-8600（ハローダイヤル）

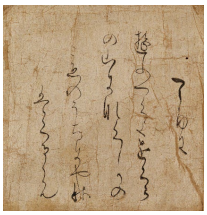
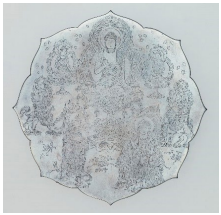
主　　催　公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社

《お問い合わせ》

泉屋博古館東京（広報担当：橋本旦子、担当：泉屋博古館　学芸員　竹嶋康平）
TEL：03-3584-8136　FAX：03-3584-8137 E-mail：pr-tokyo@sen-oku.or.jp

泉屋博古館は、住友コレクションをはじめとした美術品を保存、研究、公開する美術館です。
所蔵品は中国古代青銅器をはじめ、中国・日本書画、西洋絵画、近代陶磁器、茶道具、文房具、さらには能面・能装束など幅広い分野にわたり、現在は3,500件（国宝２件、重文19件、重要美術品60件を含む）にのぼります。当館事業の趣旨に賛同する住友グループ各社の支援のもと、京都・東京それぞれ地域の特性も活かしながら展覧会を開催し、当館の魅力を発信しています。

《貸出可能画像一覧》

	伝 紀貫之 《寸松庵色紙「ゆふつくよ」》 平安時代　11世紀　　＊前期展示 泉屋博古館蔵		《線刻仏諸尊鏡像》 平安時代 12世紀　国宝 泉屋博古館蔵
	雪舟《漁樵問答図》 室町時代　15世紀 泉屋博古館蔵		《毘沙門天立像》 鎌倉時代 13世紀 泉屋博古館蔵
	伊藤若冲《海棠目白図》 江戸時代　18世紀 泉屋博古館蔵		石濤《盧山観瀑図》 清時代17~18世紀 重要文化財 泉屋博古館蔵
	《佐竹本三十六歌仙絵切　源信明》 鎌倉時代 13世紀　重要文化財 泉屋博古館蔵		八大山人《安晩帖》 清時代・康熙33年（1694） 重要文化財　　＊頁替え有り 泉屋博古館蔵
	《小井戸茶碗　銘 六地蔵》 朝鮮時代 16世紀 泉屋博古館東京蔵		伝 閻次平 《秋野牧牛図》 南宋時代 13世紀 国宝 泉屋博古館蔵
	《蜻蛉枝垂桜蒔絵香箱》 桃山～江戸時代 16~17世紀 泉屋博古館東京蔵		《鍍金魁星像》 明時代 17世紀 泉屋博古館蔵
	《白紫地海松貝四菱唐花丸模様厚板》 江戸時代　17世紀 泉屋博古館東京蔵		《粉彩百鹿図牛頭尊》 清時代 18世紀 泉屋博古館蔵
	《弥勒仏立像》 北魏時代・太和22年（498） 重要文化財 泉屋博古館蔵		